

目次

● ヒロシマ平和の灯のつどい（報告）	1
● 日本女性会議2015 倉敷に参加して（報告）	2
● 活動報告	3
● 広島市女性団体連絡会議（ひろしまWENET）からのお知らせ	4

被爆70周年・ひろしまWENET設立20周年

ヒロシマ平和の灯のつどい（報告）



原爆犠牲者の追悼、そして核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現への願いをキャンドルの灯に託し、原爆死没者慰霊碑を中心に平和記念公園内を一周する「ヒロシマ平和の灯のつどい」は、ひろしまWENETと広島市の共催で毎年7月31日に開催しており、今年で17回目を迎えました。

民族衣装を着たカザフスタン共和国からの留学生、ダリーナ・チェキムバエワさんらが「平和の灯」から採火。その火を各参加者が持つろうそくに灯し、約150人で平和記念公園内を静かに行進しました。

今回は、被爆70周年及びひろしまWENET結成20周年という節目であることから、つどいに先立ち、特別に学習会も開催しました。

55人の参加があり、ドイツとスイスへ派遣された「高校生平和大使」2人から活動について報告してもらうとともに、交流を行いました。核兵器廃絶と平和な世界の実現を目指す高校生一万人署名を国連軍縮局



外国人観光客も行進に参加



高校生平和大使の
片山美味さん・濱崎楓子さん



学習会の模様

に提出し、各地で平和を願う思いをスピーチして感銘を得られたようです。未来を担う若者が今だからできること、高校生にしかできないことを精一杯頑張っている様子に頼もしさを感じました。この若者たちの未来に戦争のない安全で平和な暮らしを保障したいと願っています。

(報告：学習部会 重田妙子)

「ヒロシマ平和の灯のつどい」参加者の感想

2009年にカザフスタン共和国からの留学生としてヒロシマ平和の灯のつどいに参加され、現在日本の大学に在学中で6年ぶりに参加されたマリカ・ケリムバエワさんから次のような感想が寄せられました。

『初めて参加した時の感情が今でも忘れられない。広島の人びとの平和を願う心に感動し、カザフスタンの「ザマナイ」の歌を聞いて、涙を流すのは恥ずかしくないと思った。平和への願い、平和の大切さを知り、被爆の実相を学んだ。これは私の今の知識や性格や考え方の基礎となっている。私を育ててくださったことを本当に感謝している。ヒロシマは恐ろしい経験をしたからこそ、世界中に平和の思いを伝えている。カザフスタン共和国のセメイ市も核実験の犠牲者として、広島のように平和の思いを伝えることが大事だと思う。カザフスタンの人びととともに、平和の願い、思いを大切にし、伝えることができるように、私も努力したい。』



マリカ・ケリムバエワさん

日本女性会議2015 倉敷に参加して(報告)

10月9日～10日、日本女性会議2015倉敷「思いやり 男女(ひと)が集う 白壁のまち ～ライフステージとそれぞれの男女共同参画～」が開催されました。

一日目、開会式で倉敷市長の伊東香織さんが「今回で32回目、1995年の北京会議から20年。この節目の年に倉敷で行うことは大変光栄です。第1回の日本女性会議に関わられていた滝澤房子さんがおみえです。」と挨拶されました。100歳になられた滝澤さんが車いすで来られたことには、感慨深いものがありました。

記念講演は、NHK アナウンサーの武内陶子さん。「NHKの紅白歌合戦の総合司会を務めた際は、大役を引き受けるにあたって不安もあったが、先輩から一歩前に進みなさいと言ってもらい、乗り越えることができた。後輩に一歩進みなさいと言ってあげられる人になりたい。」と話されました。

二日目は、「現場で考える貧困家庭への支援 ～ひとり親家庭の子どもたち～」と題した分科会に参加しました。講師は貧困に苦しむ人たちへの支援活動をしておられる生田武志さんで、現場から見てくる課題についてお話がありました。親の貧困のために教育を受けられない、就職もままならず、逆に親の借金を背負い貧困のサイクルの中にはまり込んでいき、貧困から這い上がれない子どもたちに、私たちができること、何をすべきかを問われた思いでした。

その後は、記念シンポジウム『希望の社会は“わたしたち”にある』～ライフステージとそれぞれの男女共同参画～に参加しました。パネリストの授乳服メーカー「モーハウス」代表の光畑由佳さんは、子連れで外出したときの公共の場での授乳が大変恥ずかしく難しいことに困り、どこでも授乳ができる洋服を考



記念シンポジウムの模様

えられ、「赤ちゃんを抱いて会議ができるような光景が当たり前になるようにしたい。」と問題提起されました。同じくパネリストの伊東香織さんは、「自分が輝くときはやりがいを感じるとき、市民の声を実現できたとき。子育てするなら倉敷でと言われる街にしたい。倉敷市の合計特殊出生率は1.61（平成25年）から1.63（平成26年）に増えた。倉敷市役所では、管理職になりたくない女性職員が多かったが、彼女たちを係長や課長に登用し、自信を持ってもらっている。」と力強く言われました。女性の管理職登用は、トップが変われば変わると感じました。（報告：広報部会 山上文恵）

広島市議会女性議員との懇談会

7月8日に広島市議会女性議員とひろしまWENET会員で懇談会を開催しました。

女性議員は桑田恭子さん、近松里子さん、馬庭恭子さん、村上厚子さん、米津欣子さん（50音順）の5人、ひろしまWENET会員は28人が参加し、介護保険をテーマに意見交換しました。

懇談会に先立ち、広島市健康福祉局高齢福祉部高齢福祉課長の末政直美さんと同介護保険課長の石田芳文さんから平成27年4月に改正された介護保険法について丁寧に説明していただきました。

懇談会では、議員の自己紹介の後、参加者から「全国を視察して情報をたくさん持っている議員が介護保険制度や地域包括支援センターなどについて提案して行政を動かしてほしい。」といった要望や、「地域で高齢者を介護しようとしても地域団体の会員が減少している。」といった問題などについての質問が出ました。そして、議員からは他の地方の事例や取組状況のほか、「市町村の裁量が増える方がいい、広島方式を作っていかなければならない。」「地域差があり、行政が一律なものを地域に押し付けても無理が出る。みんなが声を出し合って、地域でできることを見つけていき、地域で仕掛け人を育てる必要がある。」「地域の中でどれだけ受け皿ができるか、自主的な力をどう支えていくかが大事である。」といった返答がありました。

このたびの介護保険制度改正に関して、地域力によって介護の質が違ってくることがよく分かりました。

（報告：啓発部会 中嶋典子）



懇談会の模様
（上）広島市議会女性議員
（左）ひろしまWENET会員

「女性に対する暴力をなくす運動」街頭キャンペーン



配偶者等からの暴力、性犯罪、売買春、人身取引、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為など女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害するものであり、男女共同参画社会を形成していくうえで克服すべき重要な課題となっています。国は、毎年11月12日～25日を「女性に対する暴力をなくす運動」と定め、意識啓発を図っています。広島市もこの

運動の一環として、市民への街頭キャンペーンを実施しており、ひろしま WENET も初めて参加して協力しました。

11月12日にJR広島駅南口広場、25日に八丁堀交差点周辺において、それぞれ約20人で、このキャンペーンの概要や相談窓口などが書かれたチラシ、ポケットティッシュなどを道行く皆さんに配布しました。（報告：広報部会 貴田月美）



キャンペーンの様相 (左上) 八丁堀 (右上) 広島駅南口広場

広島市女性団体連絡会議（ひろしまWENET）からのお知らせ

～ ひろしまWENETは、設立20周年を迎えました ～

2015年度 ひろしまWENET 役員紹介

役職名	団体名	氏名
会長	I 女性会議広島支部	貴田 月美
副会長	広島市公立保育園退職園長の会（ももくさ会）	宮田 保江
副会長	アルコ・デ・ヒロシマ	平木 久恵
書記	2000+7・平和	横光 美里
書記	一般財団法人広島市母子寡婦福祉連合会	寺本 ハツエ
会計	2000+7・平和	西村 宏子
会計	広島市未来を考える女性の会	藤永 雅子
学習部会長	安芸コスモスソントクラブ	澤野 道子
啓発部会長	特定非営利活動法人ひろしま女性NPOセンター未来	中嶋 典子
広報部会長	アルコ・デ・ヒロシマ	山本 紀子
監事	国際ソロプチミスト広島	稲垣 万由美
監事	広島市地域女性団体連絡協議会	中原 裕子

DV防止セミナー

日時：2016年2月13日（土） 14:00～16:00

場所：ゆいぽーと（広島市男女共同参画推進センター）

テーマ：DV被害者の心理とは？

講師：クロック代表 黒瀬茂子さん（DV被害者プログラム、デートDVプログラム・ファシリテーター）

前回のDV防止
セミナーの様相



2016国際女性デーひろしま

開催日：2016年3月6日（土） 場所：ゆいぽーと（広島市男女共同参画推進センター）

テーマ：「未来を拓くのは私たち」 講師：日本ジャーナリスト会議 難波健治さん

問合せ：ゆいぽーと TEL 082-248-3320 FAX 082-248-4476

休館日 月曜日、祝日（月曜日の場合は直後の休日でない日）、12月29日～1月3日

WENET ニュース第40号 2015年11月

発行者 広島市女性団体連絡会議（広島市市民局人権啓発部男女共同参画課気付）

責任者 貴田 月美